マスタープランを斬る

石炭の部 (2) 「国有化要求で決起しよう」

政治局員　蓮尾信次郎

三井よ、仮病はもうやめよ

私は前号で、「マスタープランが、三池炭鉱もエネルギー革命で重大な影響をうけている、と書いているのはウソで、三池炭鉱はもうけているのだ」と書きました。

が、「三井鉱山全体としては赤字だ」、という人がいます。

しかし別表（石炭三社の販売と原価）の数字が示しているように石炭トン当りの販売額と生産原価との差は、まさしく一千五百二十三円です。住友の三百六十三円、北炭の六百五十九円を大きくひき離しています。

第一に、生産原価そのものが、住友より一千百二十一円、北炭より一千四百二十二円も低いのです。

かって、石炭は一トン掘れば表面上二百十円、実質六百円の赤字が出る――と、日本石炭協会が発表したことがあります。このことをそのまま認めたとしても、前記の生産原価の比較から、三井鉱山全体の平均として、なお九百円くらいの黒字です。

三井鉱山の出炭は、昭和四十六年度で約九百万トンですから、政府の肩替り（一次分と二次分で四百四十六億円）と、ひき続く補助金（四十五年四月～九月間二十三億円）などで、まず赤字などまったくないと見るのが常識でしょうそれでいて、三池炭鉱の労働賃金は、住友よりも一万円も安いのです。（別表〝石炭四社の賃金比較表〟参照のこと）

だから私はいいたい――「三井鉱山よ。いいかげんに、病人のマネはやめなさい」と。

国際石油独占への従属絶て

「オーストラリヤの地元資本、米国のビーボディ社と三井物産の共同出資で、オーストラリヤから日本へ、原料炭が、一九六二年一九七〇年の間に、一千五百万トン積出されました。

米国炭は、積出しの際の荷渡価格が、二〇ドル～二一ドル。オーストリヤ炭は一二ドル五〇セント海上運賃は、米国炭が、トン当り八ドルに対し四ドルくらい」

（朝日新聞四六年二月二日号）

四十五年度の原料炭輸入は約五千万トンで、そのうち米国炭が約三千万トン近くになります。

もうけるためには、どんなことでもやる三井と、その他の独占資本。それを助ける日本政府。

わが国の石炭を制圧した石油は国際石油カルテルのあやつる糸によって、昨年一年間だけで、七千億円から八千億円へ、その値段をつりあげました。

それにもかかわらず、鉄鋼独占資本の中には、日本の原料炭は、トン当り一千二百円も外国炭よりも高い。だから、日本の原料炭は要らん――といって、日本の石炭産業の総滅論さえはく者がいるほどです。

石炭と、その運命を共にしている大牟田市で今必要なことは、市長・市議会が率先して、「石炭の私企業を、一日も早く国有化する」よう要求し、そして、全国の石炭と密接な関係をもつ自治体が同じ要求で統一され、市民を結集し、中央政府に対する運動に起ちあがることです。

さらには大牟田市として、〝鉱産税〟を百分の一・二にすれば、平均二千万円の増収が保障されていることも、忘れてはなりません。

×

蓮尾さんのこの論文は、今後さらに数回続くことになっております。石炭問題の背景を見る上で重要ですから、ご愛読をお願いします。

石炭三社販売と原価

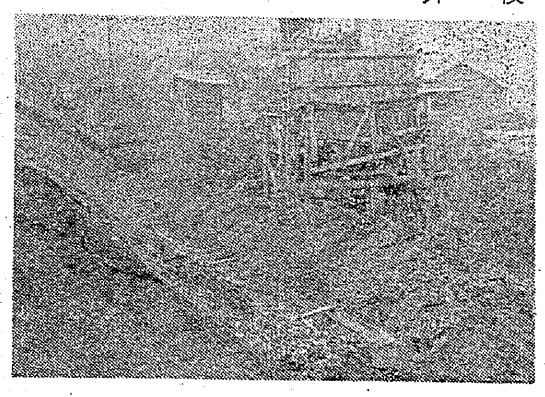
企業名	平均販売価格	生産原価
三井　鉱山	4,970円	3,447円
（三　池）	4,376円	3,034円
住友　石炭	4,931円	4,568円
北海道炭鉱	5,528円	4,869円

（注＝生産原価、販売価格とも45年下期有価証券報告総覧から。三池の販売価格は鉱産税課税面から推定）

石炭四社賃金比較

企業名	転員平均賃金	鉱員平均賃金
三井　鉱山	85,032円	64,517円
三菱　鉱業	79,583円	52,194円
住友　石炭	78,499円	75,457円
北海道炭鉱	83,618円	72,528円

（注＝有価証券報告書総覧から）



炭山ぞくぞく閉山

写真は、筑豊のそこかしこで見られる風景。かつては炭田と呼ばれたこの地で、廃坑跡ばかりが野ざらしになつている。人の影なく、寒い風が吹いている。

薄ッぺらな財布を――ぶっつけてやりたい気持

宮ノ前分会　塚本みすえ

昔は、給料袋を上から落とすとすぐ下に落ちていたような気がする。

最近は、一万円札が出てきてからは特に、金の値打ちがなくなって、給料袋を上から落とすと、ハラハラハラと風に吹かれてとんでいってしまうような気がしてならない。

この間のこと――娘が中学一年に進学するので、カバンを買ってやりたいと思って、百貨店に買物に出かけた。

内心、まア五千円も出せばいいのがあるだろう、と胸算用をしていた。

ところが、好きな物があったので正札を見ると、一万円となっている。

これではとても買えない、と思って、五千円くらいの正札のをさがすと、今度は品物が全然気に入らない。

それなら、カバンをあきらめて本箱でも、と思って見ると、これも結果は同じ事である。

ほしいと思うものは買えないので、スカートとかシャツでも買ってやろうかな、と気をかえて見ると、品物は沢山あるが、デザインがみんな気に入らない。

仕方がないので、何も買わずにがまんする事にした。

一歩百貨店から街に出れば、そこにも、何から何まで、金さえ出せば、すぐ手に入る商品がはんらんしている。

何もなかった時代には、みんなが買おうにも買えなかったのだから、貧しい生活も案外苦にならなかったものです。

ところが現在では――買物に出れば、買いたい物と財布の中身とを見くらべなければならない気持のみじめさ。

高いのぞみはもたないけれど、せめて必要品くらいは、現金ですぐ買えるような給料をもらいたいものです。

今年の春闘は、資本家側は不景気宣伝がよく効いたと見て、ずい分高姿勢のようです。

しかし私たちの生活は、今ギリギリの限界にきています。中身の薄い財布を、ドンと、資本家どもの顔へぶっつけてやりたい気持でいます。

×

右の一文は、三池主婦会三川支部の新聞〝主婦会三川〟（NO・四二、二月二十六日発行）から、いただきました。

短歌会報告

文協短歌部　木村守

三池文協の短歌部会は、その第一回を二月五日日井新町一丁目の中村和民（港務）氏宅にて会合。集まったのは、会場主中村氏のほかに、新港町より松原直吉（港務）氏、本村理子（家族）氏、万田より木村（三川）、それに前田義則（宮浦）氏が馳せ参じ、都合五名。参加者こそ数少なかったが作品レベルは、高度で頼もしかった。

それぞれ提出の十四首。各人三首ずつの選をし、批講。最高点位に、本村さんの――「帰省の娘の言葉変れば吾が胸のとびら開げぬもどかしさ覚ゆ」「新年のみいけの紙面汚したる吾が短歌のみ夫には見せず」、の二首、素直な対象を強く引きつけ、技巧に走らない良さを選び、前田氏の、「怒りたるおのれ寂しむ傍を幼児ふたり避けて往来す」、の傍のあたりに、屋外か屋内かの不確実さを突くはあったが、以上の三首を同点一位にあげ、和気あいあいのうちに終わった。以下当日の出詠。

家近き道に働くブルトーザーの力にたまぐ幼らといつ　松原

思うこと同じにあるかわが手紙行く日に待ちし便りが届く　木村

怒りたるおのれ寂しむ傍を幼児ふたり避けて往来す　前田

抗内の勤めをやめて鯉を飼う土地が欲しいと嘆く健吉　中村

野菜屋の屑積みありし空地にも建ちはだかりて大き二階家　木村

呼吸細く寝入りし母の口の端のシワに吐きたる血汐固まる　前田

番号の彫られて低き囚人の墓碑ならびおり寒枯るるなか　中村

嘘は姿婆の宝とはわが徒弟時に商業用語に聞き覚えたり　木村

坑道の枠蔡れて咲くかびの花かすかな入気ありてそよげる　前田

冬の田にさす陽のせなに暖かく小綬鶏の毛わら火に焙る　中村

春光の中にきざせる旅ごころはるかなる雲ひかりてそそる　松原

才能を秘めたる義兄を差別し来し課長に義兄の最後の一喝　本村

帰省の娘の言葉変れば吾が胸のとびら開げぬもどかしさ覚ゆ　本村

新年のみいけの紙面汚したるわが短歌のみ夫には見せず　本村

安見

北岡脩さんの七回忌によせて……

野添分会　松尾ケイコ

昭和三十八年十一月九日より数えて、もう八年三ケ月を過ぎました。

この長い期間に、私はどれほどの人と会ったかわかりませんが、CO闘争の第一の犠牲者となられた北岡ひとしさんを忘れることはできません。

二月九日、いみじくも、十一月九日と日が同じであったことも何かと因縁めくように感じますが、夫がCO患者になるまでは、北岡さんとは、余り口をきく機会もなかったのでした。それは、CO闘争の中でお世話をしていただくようになったときからでした。

私はまず、その声の大きさに驚きました。北岡さんと話をしていると、まるで叱られているような感じでした。私はよく、「そんなに叱らんでもよかでしょう」、と文句をいいながら、その言葉とはうらはらに、その人間性の豊かさを感じてはホッとするのでした。

私は遺族会の結成を見たときから、患者を抱えた家族も、あのような組織があれば、と何度も考えていました。

昭和四十年の三月始め、冬には珍しく雨がどしゃ降りする日玄関の外で、「オーイ、松尾さん。いよいよつくるぞー」、と声がしたかと思いますと、同時に戸が開き、北岡さんが、雨水を合羽から滝のようにしたたらせながら、いわれたものでした――「家族の会をつくるぞ。つくる以上、松尾さん覚悟はできてるだろうな。役員をやるか。あんたが、その役員説得の最後の人だ。やるぞ松尾さん」

その北岡さんが、それから一年も経たない翌年の二月五日、楓闘争本部で、CO問題に関して座談会を開いていた中で倒れられたことを、私は聞いたのでした。私は翌六日、同じCO患者の三上さんのお母さんに、荒尾の不動様に全快祈願に行ってもらったところ、「必ず治ります」、と神様が告げられたと聞き、安心したものでした。

その矢先の九日には、北岡さんは帰らぬ人となられたのです。北岡さんは、息の切れる瞬間まで、「COが、COが」、といい続けられていたとのことです。

その後のCO闘争は、三池全体一丸となっての闘いにもかかわらず困難を極めています。北岡さんも、さぞやいらいらしながら、あの大きな声で、「もう少し、しっかりしろ」、と叫んでいられることでしょう。

会社の合理化がますますはげしさを増す一方で、労働者はどうあらねばならないか。CO家族は、またこの三池の闘いにかかわり合う人たちは……。もう一度考え直したいものと思います。

その中から「本当に北岡さんやりました」、と立派に報告できる日をつくり上げたいものだと思います。北岡さんのご冥福を、心よりお祈り致します。

松尾さん